ひたちなか市埋蔵文化財調査センター　2024. 春

ひたちなか 埋文だより 60

十五郎穴横穴群が国指定史跡に！　2023 年 10 月 20 日，十五郎穴横穴群が国指定史跡になる答申が出ました。答申が出るのを待って，特別展「祝！十五郎穴が国指定史跡に」や市の広報誌「市報」の特集記事の準備などを行いました。市報では，特集記事のほかに，表紙も十五郎穴にしたいとのうれしい申し出があり，表紙撮影の現場に立ち会ったのが，今回の写真です。当初はカメラを片手に持つ古墳女子をイメージしていましたが，雨のため急遽傘をさすポーズとなりました。雨のおかげで薄暗い背景となり，十五郎穴がより神秘的に見えて，素敵な表紙となりました。

（2023.10.15）

CONTENTS

第20回企画展　古代集落の姿－ひたちなか市の奈良・平安時代を中心に－

公開講座「ひたちなか市の考古学」第16回　古代の集落と開発

調査報告　**ひたちなか海浜古墳群出土の人骨（2）**（梶ケ山眞里）

「私的茨城考古学外史－遺跡・人 出会いと別れ－」　第9回　発掘三昧への道　県外編4（瓦吹 堅）

特集　**ひたちなか市埋蔵文化財調査センター開館 30 周年・記念ポスター展**

横穴墓を歩く㉛　**高井田横穴群**（安村俊史）

ひたちなか市内の発掘調査 2023

のぞき見、展示室⑦　**土製円盤**

歴史の小窓㉚　**引っ越しの神祀り**

ほか

第 20 回企画展

古代集落の姿

ひたちなか市の奈良・平安時代を中心に

2024 年 2 月 9 日（金）～ 5 月 8 日（水）

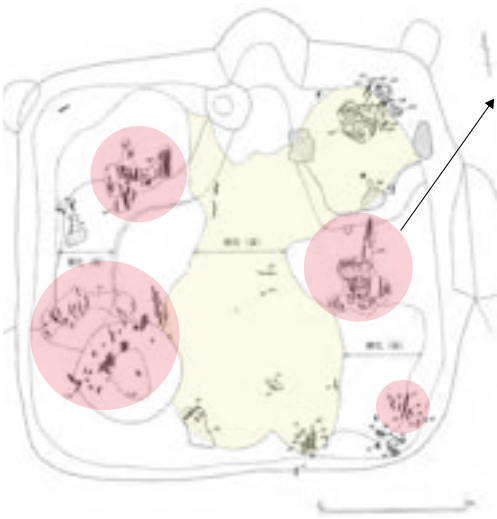
今回の展示は、ひたちなか市における奈良・平安時代の集落遺跡の調査成果について、令和六年二月九日（金）から五月八日（水）にかけて開催しました。展示は、1．竪穴住居のつくり、2．集落と水田、3．移住の様相として、ひたちなか市を中心とした事例を紹介しました。

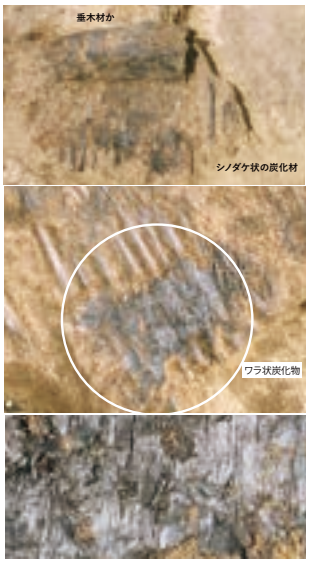
竪穴住居のつくり　遺跡に残された竪穴住居の痕跡から、住居構造全体の詳細を復元することは不可能ですが、『埋文だより』五九では復元への一歩として、住居跡の分類と消長を整理しました。竪穴住居のつくりに関する展示はその成果を中心としましたが、珍しい遺物として、火事にあった原前遺跡第三号住居跡の床面から出土した、炭化した敷物を展示しました。

それは、シノダケ?を密に並べた敷物の上に、ワラで作ったコモ状の敷物が敷かれている炭化材です。崩壊した垂木材が上に乗っていたことで、かろうじて焼け残ったコモ状の敷物は、紐で編みこまれていました。シノダケ状炭化物は下の図の赤色の部分の床面から出土していますので、こうした敷物が住居跡床面のやわらかい部分に敷かれていたようです。

集落と水田　那珂川と久慈川の下流域では、古墳時代から奈良・平安時代まで続く遺跡は平野部に集中し、山間部には奈良・平安時代から始まる遺跡が多くみられます。ひたちなか市は那珂川下流域の平野部に位置していますので、古墳時代から続く集落遺跡が数多く存在しています。

遺跡分布図でA・Bと示したあたりは、中丸川下流に広い低地が認められますので、水田適地として早くから開発が進められたことが考えられます。また那珂川低地のC・D・E・F付



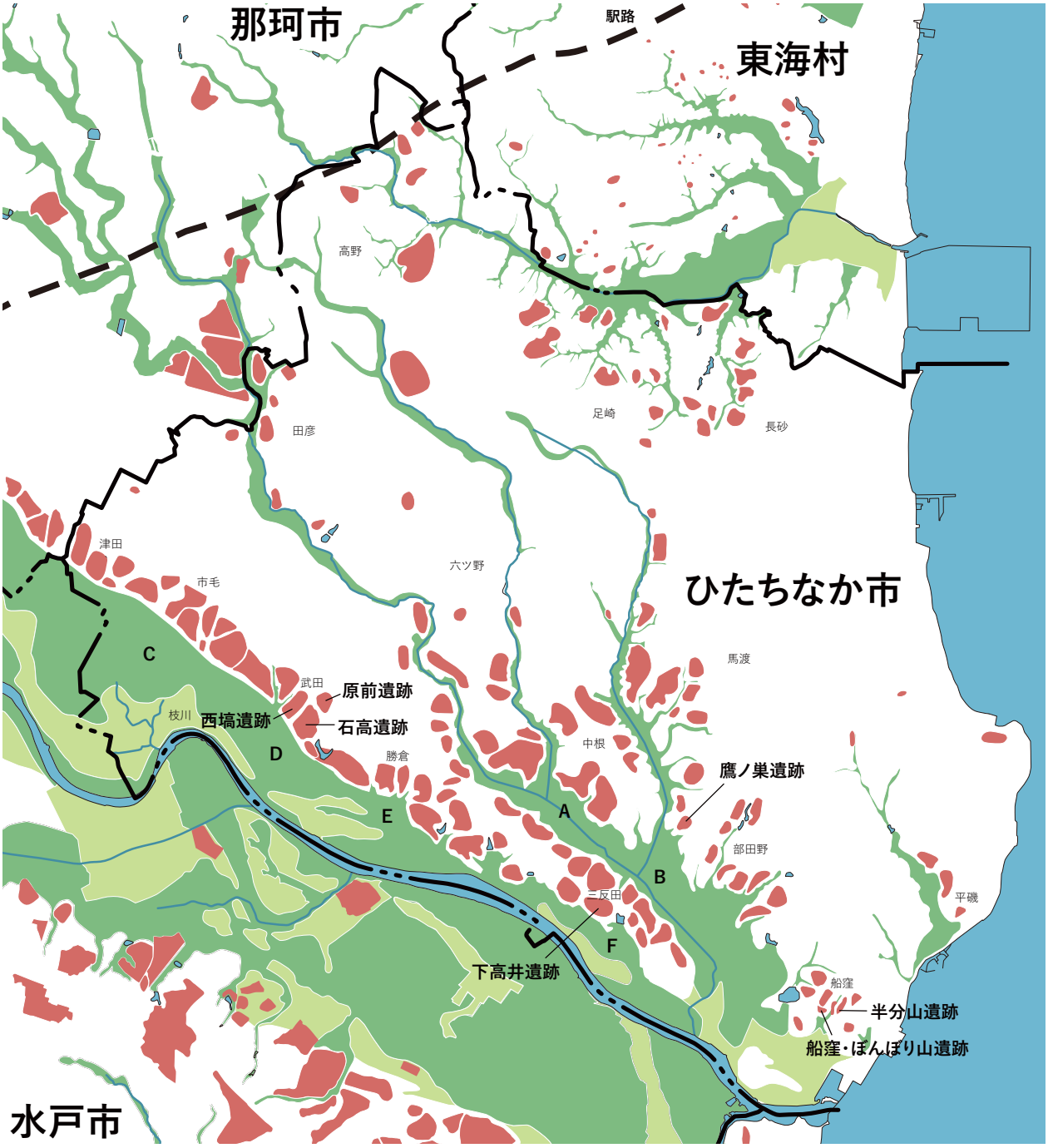


シノダケ状炭化材の上に垂木材がのって出土しました。その垂木材をはずしたところ…

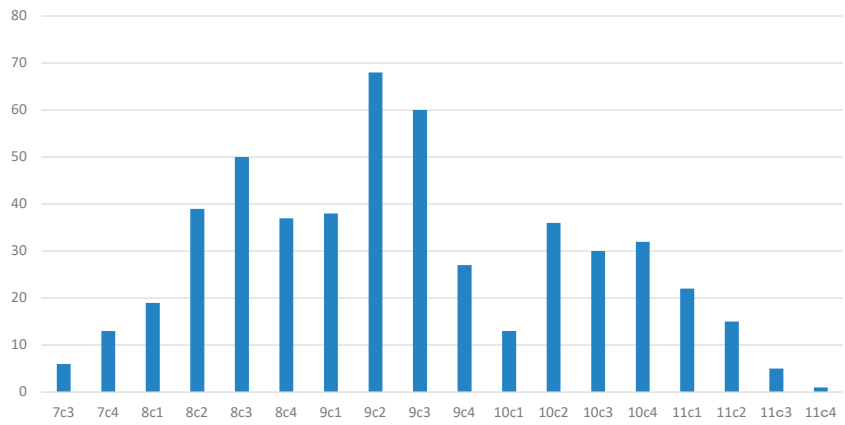
その下にワラ状の炭化物が燃え残っていました。シノダケ状炭化物の上にワラでつくった敷物が敷かれていたことがわかったのです。

しかもワラ状炭化物をよく見ると紐で編みこまれていますので，コモのような敷物であったようです。

原前遺跡第３号住居跡床面に敷かれていた敷物



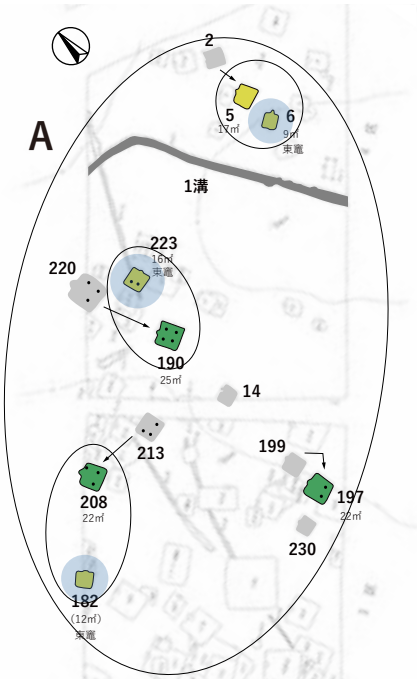
ひたちなか市における奈良・平安時代遺跡の分布

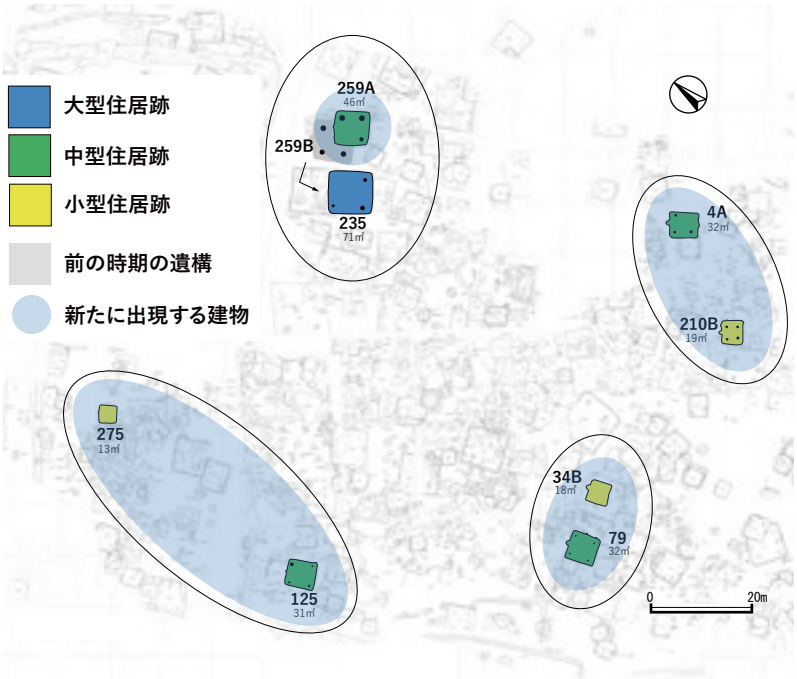


ひたちなか市における奈良・平安時代住居跡数の変化

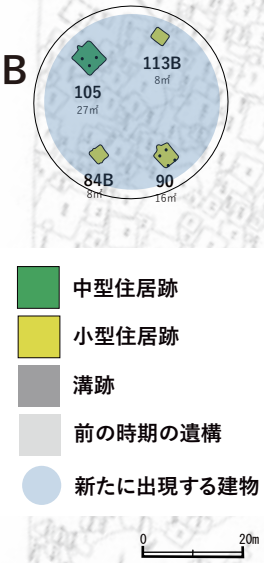
近は、黄緑色で示した微高地のおかげで、洪水の被害が少なかった場所と思われます。そのような場所も水田がつくりやすい土地でした。そうした低地を望む台地縁辺には、集落遺跡がすき間なく並んでいることがわかります。

ひたちなか市の奈良・平安時代の住居





西塙遺跡７世紀第４四半期から８世紀第１四半期頃の集落



下高井遺跡８世紀第４四半期から
９世紀第１四半期頃の集落

跡数は九世紀第２四半期をピークとしています。そうした点からみますと、大規模な水田開発は、八世紀中頃から九世紀前半頃にかけて実施された可能性が高いように思われます。

移住の様相　水田経営のために移住してくる人々は、どのような形で集落に入ってくるのでしょうか。ここでは集落に新たに移住してくる人々の建物のまとまりに注目してみます。

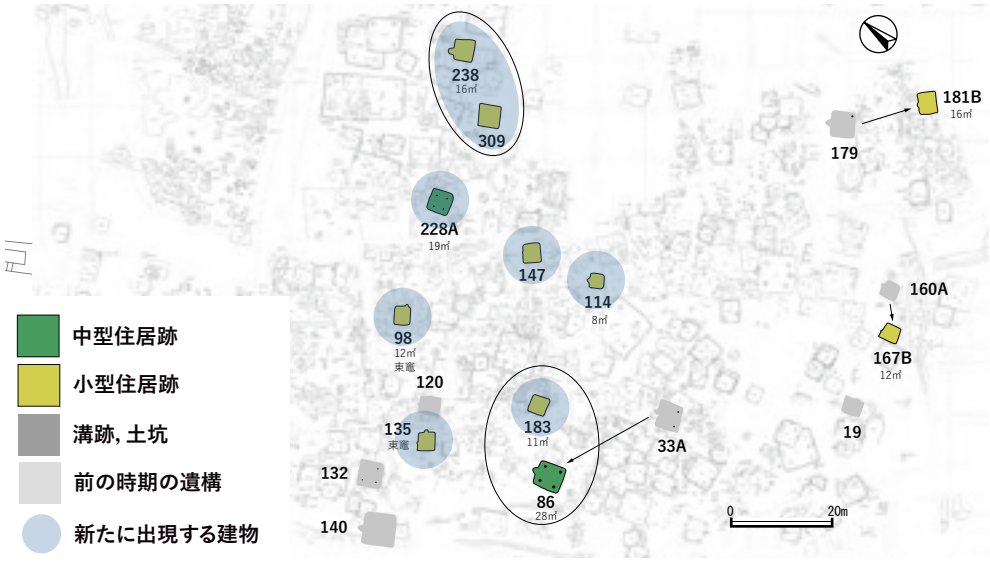
西塙遺跡では、七世紀末から八世紀初めの時期に、大型住居のまわりに中型住居を有する三つの住居群が形成されます。大型住居の二三五号住居は、前の時期の大型住居である二五九Ｂ号住居を引き継ぐ住居と考えられます。当期に新たに出現する三つの中型住居は、いずれも小型住居を伴っています。他の遺跡でも、中型と小型の住居が組み合う住居群が多くみられますので、その組み合わせは八世紀頃の一般的な住居群の構成であったようです。西塙遺跡に出現した三つの住居群は、西塙遺跡直下の那珂川低地に水田が班給された人々の「家」であろうと推測されます。

下高井遺跡では、平安時代初めごろ、前時期から続く住居群であるＡ群の南西側に、中型住居を中心とするＢ群が出現します。水田が近くに班給されたことで移住してきた「家」なのかもしれません。集落の南側に位置しているところをみると、水田は南側の那珂川低地にあったのでしょうか。

西塙遺跡では、八世紀中頃に住居数が急に減少した後、中型住居の北側に、中型住居１基と小型住居７基がまとまって出現します。こうした小型の住居が集住する姿は、前述の「家」の姿とは異なるようにみえます。それは、耕作者が減って荒れた水田を再開発するために集められた人々の住居群のように思えるのです。家ごとの口分田経営から、有力者による私営田経営へと、水田経営のあり方が変化した可能性もあるのでしょう。

八・九世紀には、水田の開発を重要な職務とする郡領に集中した権力を背景に、条里水田に

代表される大規模水田の造成と経営を進めるため、広く平坦な台地上に大集落が形成されました。それが九世紀後半頃から郡領の権力が解体してくると、台地上の大集落は減少し、一〇世紀末から一一世紀初めの船窪遺跡や、一一世紀



西塙遺跡 8 世紀第 3 四半期から第 4 四半期頃の集落

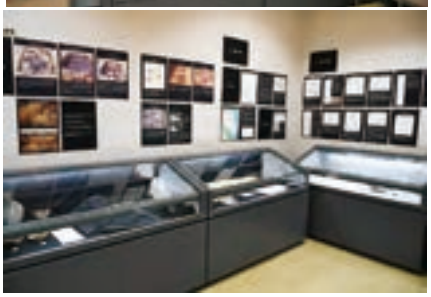
の下高井遺跡や石高遺跡のように、小型住居が分散して居住する事例が多くみられるようになります。これらの住居は次の時期には継続しない、当期のみ営まれた住居です。このように継続性に欠ける点は、台地上に分散居住する小住居の事例に共通する特徴です。移動が頻繁に行われた畠作地とともに移住していたのでしょうか。時々は有力者の水田に出向いて、労働することがあったのかもしれないなどと想像してしまいます。

全国では数多くの集落遺跡が発掘調査されているにもかかわらず、いまだ奈良・平安時代の集落研究は本格的な研究へと踏み込めていない

船窪遺跡 10 世紀第 4 四半期から
11 世紀第 1 四半期頃の集落

ように感じます。それは、一つ一つの集落遺跡を時期ごとに丁寧に分析し、そのように分析した多数の集落構造を比較するという、何年もかかる地道な作業が壁になっているからなのでしょう。将来、全国でそうした壁を乗り越える集落遺跡研究が出てきたとき、きっとこれまで見えてこなかった古代集落の姿が、私たちの目の前に現れてくるのだろうと確信しています。

（佐々木義則）



展示のようす

今回の企画展の開催に際し，下記の方々・機関からご協力をいただきました。（50 音順，敬称略）

杉浦果奈，矢野徳也，
常陸大宮市教育委員会

公開講座「ひたちなか市の考古学」第一六回

古代の集落と開発

二〇二四年二月十七日から三月九日の毎週土曜日に、公開講座「ひたちなか市の考古学　第一六回　古代の集落と開発」を開催しました。三名の研究者をお招きし、古代東日本の集落と開発に関する御研究についてお話しいただきました。講座は、地域の開発と経営にいそしむ古代人の姿を彷彿とさせる内容でした。なお、今回の講座は、後日、記録集を刊行する予定です。

月／日	演　　題	講　　師
2/17（土）	古代陸奥南部の集落と開発	福島県文化財センター白河館 菅原　祥夫　氏
2/24（土）	古代下総国の集落と開発	市立市川考古・歴史博物館 加藤　貴之　氏
3/2（土）	一望千里　四角い村と四角い田 ―発掘でわかる古代の国土開発―	埼玉県立自然の博物館 岩田　明広　氏
3/9（土）	ひたちなか市の古代集落の姿	ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 佐々木　義則

福島県文化財センター白河館
菅原（すがわら）　祥夫（さちお）　氏

「開発のピークに伴って変化する，集落・寺院・墓・流通などは，背後に国府や郡衙の関与がありました。それらは，これまで個別に評価される傾向がありましたが，「地域開発」というキーワードのもとに，一体的に評価するとわかりやすいのかな，と思います。」

市立市川考古・歴史博物館
加藤（かとう）　貴之（たかゆき）　氏

「八世紀後葉以降に集落が拡大します。もともと河川の下流域に集落があるところでは，上流域にも集落が形成されます。特に印旛沼西岸地域では，急に建物が増える集落がいくつも見つかっていますので，かなり規模の大きな開発が行われて，それに伴う集落が形成されています。」

埼玉県立自然の博物館
岩田（いわた）　明広（あきひろ）　氏

「八世紀になると，広域の国土計画に共通する条里型地割が施工されてきます。集落の再編成を伴いながら，大規模用水等の整備を先行させて，農地管理者の条里型集落が条里のなかに形成されます。中世以後になると，方格地割の意味がだんだんと失われていく時代がきます。」

歴史の小窓　その三〇

引っ越しの神祀り

火事にあった西塙遺跡三一〇号住居跡のカマド右脇の棚上に置かれた状態で、二つの杯が出土しました。杯1（写真）をよく見ると口縁部に油煙がついていますので、灯明具だったようです。もうひとつの杯2には神への捧げものが入っていたのかもしれません。また棚の前の床からは、須恵器の壷が横倒しで出土しました。杯とともに棚の上に供えられていたものが、火事の際に棚から転落した可能性もあります。酒が入っていたのでしょうか。

この住居跡からは、使える状態の煮炊き具が出土していません。カマドは壊されていましたので、使える材料を持ち出した後の状況のようです。つまりどういうことかというと、引っ越し作業をほぼ終え、最後に灯明をともし、神饌を盛った杯と酒を入れた長頸瓶をお供えし、住み慣れた家とのお別れに際して、神に祈りを捧げていたようにみえるのです。

もしかすると灯明の火が屋根の裾に燃え移り、火事になってしまったのかもしれません。棚付近の炭化材がよく焼けて残っていないことも、火元を示している気がするのです。（佐々木義則）

横穴墓を歩く 31

大阪府柏原市

高井田横穴群

安村　俊史
（柏原市立歴史資料館）

奈良盆地の水を集めた大和川が大阪平野へ流れ出る、その右岸の丘陵に高井田横穴群があります。これまでに一六二基の横穴が確認されていますが、実際には二〇〇基を超えることはまちがいありません。大正一一年（一九二二）に一部が国史跡に指定され、平成二年（一九九〇）に史跡の追加指定を経て、現在は史跡高井田横穴公園として整備、公開されています。

凝灰岩の岩盤に掘られた横穴は、墓道から狭い羨道を抜けて玄室に至る構造です。玄室床面は方形もしくは縦長の長方形が多く、壁面は垂直に立ち上がりドーム状の天井となります。非常に美しく仕上げられており、横穴としては他に例をみない美しさです。

このうち、二七基の横穴に線刻壁画がみられます。中でも有名なのは、第三支群五号横穴の壁画で、船に乗る人物など三体の人物が描かれています。他界へと旅立つ姿を描いたものと考えています。それ以外にも騎馬人物、馬、船、家、鳥、蓮華、樹木、葉のほか幾何学的な文様が多数発見されていますが、後世に刻まれたものも含んでいるようです。

副葬品は、耳環、碧玉製管玉、琥珀製棗玉、ガラス玉、土玉など装身具が多く、ほかには武器、馬具が少数出土しているのみです。須恵器・土師器はほとんどの横穴から出土しており、これによって横穴が六世紀中頃から七世紀初めにかけて営まれたことがわかります。また、渡来系集団との関係が想定されるミニチュア炊飯具が二基から出土しています。

棺はほとんど木棺と考えられ、板材を打ち付けた釘によって、その存在を確認できます。また、造り付けの石棺が一七基の横穴で見られます。棺配置は、奥壁に沿って一棺、その手前に縦に二棺の三棺を納めるものが多く、いわゆるコの字形の棺配置をとります。

横穴の形態や棺配置から考えると、九州、中でも肥後地域から伝わったものではないかと考えられます。横穴の美しさから、肥後から移ってきた石工集団が関与しているのではないかと考えています。

史跡高井田横穴公園に隣接して柏原市立歴史資料館があり、横穴からの出土品も公開しています。JR大和路線高井田駅を降りると目の前が史跡公園です。

写真２　第２支群３～５号横穴

写真１　「船に乗る人物」線刻壁画
（第３支群５号横穴）

二〇二三年度の市内遺跡は、試掘調査31件、本調査2件の、あわせて33件の調査が実施されました。

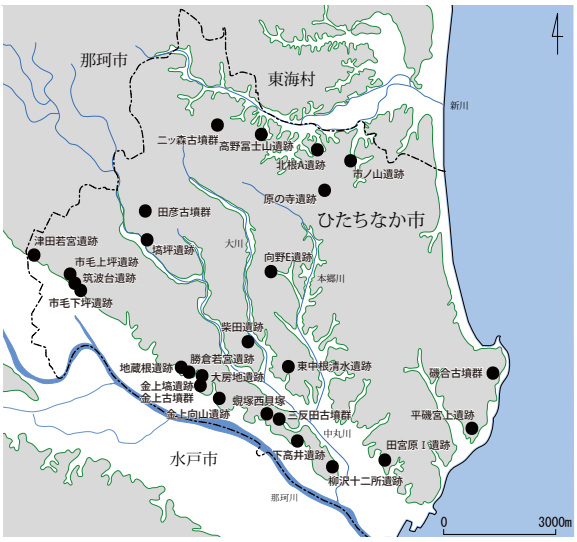
大房地遺跡第22次調査では、住居跡1基、土坑10基、ピット8基が確認されました。住居跡は加曽利E1式期の土器が出土しており、時期は縄文時代中期後半頃と考えられます。土坑は、七世紀後半～八世紀前半の井戸跡が1基、時期不明の井戸跡が1基、砲弾片が出土したことから艦砲射撃による砲弾着弾跡の可能性があるものが1基確認されました。その他は、縄文時代中期後半頃の土器が出土しているため、住居跡と同時期頃に形成された土坑と考えられます。

下高井遺跡第9次調査では、住居跡7基、ピット3基が確認されました。ゴボウの耕作による攪乱がありましたが、住居跡床面近くの遺存状態は比較的よく、竈の袖石や支脚が残り、多くの土師器や須恵器が出土しました。特に第5号住居跡からは、銅製丸鞆・平瓦片・勾玉形石製模造品と貴重な遺物が出土しています。出土遺物から住居跡の時期は、古墳時代2基、奈良・平安時代が5基と考えられます。

試掘調査では、金上塙遺跡第12次・金上古墳群第1次調査で尖頭器、田彦古墳群第2次調査で縄文時代草創期の隆起線文土器が出土。磯合古墳群第9次調査では、古墳の主体部が確認されています。

（田中美零）

下高井遺跡第 9 次調査
第 5 号住居跡出土銅製丸鞆



調査された遺跡の位置

大房地遺跡第 22 次調査区

下高井遺跡第 9 次調査　第 4・5 号住居跡遺物出土状況

のぞき見展示室 その7

第七回で紹介するのは、「土製円盤」です。

土製円盤は、土器片を打ち敲いて円形状に加工した物です。大きさは2㎝～6㎝くらいで、側面に擦痕がみられるものが多く出土します。また、中心に孔をあけたものもあり、「有孔土製円盤」と呼ばれています。

これらの遺物は、東日本の縄文時代全時期にみられますが、特に中期の遺跡から多く出土する傾向があります。遺跡から多量に出土することもある土製円盤ですが、どのように使用されていたのかは、明確に分かっていません。祭祀に使用された道具や筒状の容器の蓋や栓、数を表すための換算具、木製品の仕上げに使用した研磨道具であるといった考察が、これまでになされています。

市内では、縄文時代中期の加曽利E3式期の遺構が確認された君ケ台貝塚で、土製円盤が16点、有孔土製円盤が6点出土しているほか、中期加曽利E3式期～後期加曽利B式期の三反田蜆塚貝塚で、土製円盤13点、有孔土製円盤9点などが確認されています。

（田中美零）

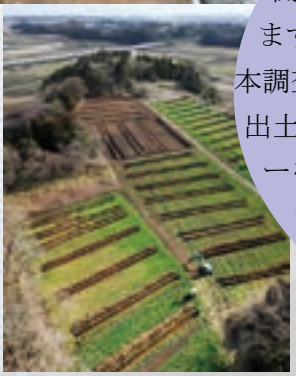
2023（令和 5）年度市内遺跡調査一覧表

No.	遺跡名	次数	所在地	種別	時期	遺構・遺物
1	金上向山遺跡（かねあげむかいやまいせき）	4 次	金上	試掘	4 月	住居跡 6 基 (奈良・平安)，土坑 2 基，溝跡 1 条，ピット 1 基を確認。縄文土器，土師器，須恵器が出土。
2	三反田古墳群（みたんだこふんぐん）	7 次	三反田	試掘	5 月	溝跡 1 条を確認。須恵器が出土。
3	高野冨士山遺跡（こうやふじやまいせき）	20 次	高野	試掘	5 月	住居跡 1 基 (古墳)，溝跡 1 条を確認。土師器，鉄滓が出土。
4	東中根清水遺跡（ひがしなかねしみずいせき）	7 次	中根	試掘	5 月	なし。弥生土器，土師器，須恵器，近世土器，近世陶器の破片が少量出土。
5	田彦古墳群（たびここふんぐん）	2 次	田彦	試掘	6 月	溝跡 2 条，ピット 4 基，土坑 1 基を確認。縄文土器，土師器が出土。
6	市ノ山遺跡（いちのやまいせき）	1 次	長砂	試掘	6 月	土坑 1 基を確認。出土遺物なし。
7	柳沢十二所遺跡（やなぎさわじゅうにしょいせき）	2 次	柳沢	試掘	6 月	土坑 1 基を確認。縄文土器が出土。
8	大房地遺跡（おおぼうちいせき）	22 次	勝倉	本調査	7 月	住居跡 1 基（縄文），土坑 10 基（縄文 7，奈良 1，艦砲砲弾着弾跡 1，不明 1），ピット 8 基を確認。縄文土器，土師器，須恵器，陶器，石器，埴輪片，艦砲砲弾片が出土。
9	北根 A 遺跡（きたねえーいせき）	1 次	足崎	試掘	7 月	なし。
10	平磯宮上遺跡（ひらいそみやうえいせき）	2 次	平磯	試掘	7 月	溝跡 2 条を確認。出土遺物なし。
11	金上向山遺跡（かねあげむかいやまいせき）	4 次	金上	試掘	7 月	住居跡 13 基（奈良・平安），溝跡 7 条，土坑 3 基，ピット 7 基を確認。土師器，須恵器，陶器が出土。
12	高野冨士山遺跡（こうやふじやまいせき）	21 次	高野	試掘	7 月	なし。
13	二ッ森古墳群（ふたつもりこふんぐん）	2 次	稲田	試掘	8 月	土坑 1 基（不明）を確認。出土遺物なし。
14	二ッ森古墳群（ふたつもりこふんぐん）	3 次	稲田	試掘	8 月	なし。
15	柴田遺跡（しばたいせき）	10 次	中根	試掘	8 月	なし。
16	下高井遺跡（しもたかいいせき）	8 次	三反田	試掘	8 月	住居跡 8 基（古墳 2，平安 1，時期不明 5），土坑 4 基（時期不明）を確認。土師器，須恵器，陶器が出土。
17	蜆塚西貝塚（しいづかにしかいづか）	2 次	三反田	試掘	9 月	溝跡 1 条，土坑 1 基を確認。縄文土器，土師器が出土。
18	原の寺遺跡（はらのてらいせき）	2 次	足崎	試掘	9 月	なし。
19	地蔵根遺跡（じぞうねいせき）	9 次	勝倉	試掘	9 月	土坑 1 基，ピット 2 基を確認。出土遺物なし。
20	筑波台遺跡（つくばだいいせき）	5 次	市毛	試掘	9 月	住居跡 1 基（時期不明），土坑 6 基（古墳 2，時期不明 4），焼土遺構 1 基，ピット 2 基を確認。弥生土器，土師器，須恵器，中世土器，かわらけ，陶器，瓦，焼石，鉄製品が出土。
21	金上塙遺跡（かねあげはなわいせき） 金上古墳群（かねあげこふんぐん）	12 次 1 次	金上	試掘	10 月	住居跡 16 基（縄文 2，平安 3，時期不明 11），土坑 10 基，溝跡 2 条，ピット 20 基を確認。尖頭器，縄文土器，土師器，須恵器，砥石が出土。
22	磯合古墳群（いそあいこふんぐん）	9 次	磯崎	試掘	10 月	古墳 1 基（主体部，周溝 1 条），ピット 1 基を確認。出土遺物なし。
23	勝倉若宮遺跡（かつくらわかみやいせき）	7 次	勝倉	試掘	10 月	住居跡 6 基（奈良 1，平安 2，時期不明 3），土坑 1 基（平安），溝跡 1 条を確認。弥生土器，土師器，須恵器，陶器が出土。
24	下高井遺跡（しもたかいいせき）	9 次	三反田	本調査	12 月	住居跡 7 基（古墳 2，奈良・平安 5），ピット 3 基を確認。縄文土器，土師器，須恵器，近世陶器・磁器，銅製丸鞆，平瓦片，勾玉形石製模造品が出土。
25	市毛下坪遺跡（いちげしもつぼいせき）	25 次	市毛	試掘	12 月	住居跡 10 基（奈良・平安），溝跡 1 条，ピット 1 基を確認。土師器，須恵器が出土。
26	磯合古墳群（いそあいこふんぐん）	10 次	磯崎	試掘	12 月	溝跡 1 条（古墳の周溝か）を確認。出土遺物なし。
27	塙坪遺跡（はなわつぼいせき）	1 次	西大島	試掘	12 月	土坑 4 基（時期不明），ピット 25 基を確認。出土遺物なし。
28	津田若宮遺跡（つだわかみやいせき）	16 次	津田	試掘	1 月	住居跡 1 基（古墳），溝跡 1 条，ピット 1 基を確認。縄文土器，弥生土器，土師器が出土。
29	二ッ森古墳群（ふたつもりこふんぐん）	4 次	稲田	試掘	1 月	なし。
30	向野 E 遺跡（むかいのいーいせき）	3 次	馬渡	試掘	1 月	ピット 1 基を確認。出土遺物なし。
31	市毛上坪遺跡（いちげかみつぼいせき）	37 次	市毛	試掘	1 月	住居跡 11 基（古墳 8，時期不明 3），土坑 4 基，溝跡 2 条を確認。縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，瓦が出土。
32	田彦古墳群（たびここふんぐん）	3 次	田彦	試掘	2 月	土坑 1 基，溝跡 3 条，ピット 6 基を確認。出土遺物なし。
33	田宮原 I 遺跡（たみやはらいちいせき）	2 次	田宮原	試掘	3 月	住居跡 1 基（古墳），ピット 1 基を確認。土師器が出土。

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

開館　３０周年！！！

埋文センターは，1993（平成 5）年に開館してから，2023 年 12 月 3 日で 30 周年を迎えました。これまでに，企画展や体験講座などの行事，学校の団体見学や博物館実習で多くの方に利用していただきました。30 周年を迎えることができたのも，来館していただいた方々のおかげです。2013（平成 25）年で 20 周年を迎えた際に，当センターの歩みをまとめ埋文だよりに掲載しました（埋文だより第 41 号）。今回は，センターが実施している事業について，紹介していきたいと思います。（田中 美零）



遺跡の発掘調査

市内には，現在周知されているもので，約 300 の遺跡があります。遺跡の範囲に指定されている場所の開発を行う時には，必ず調査が必要になります。まず，開発場所に遺構がどのように広がっているのかを，試掘調査で確認します。そして，確認された遺構が，開発により壊されてしまう場合には本調査を実施し，遺跡の記録を行います。センターではこれらの発掘調査と，出土した遺物の整理，報告，保管を主な業務として行っています。センターを開館してからの調査は，約 150 遺跡に対して，600 件近くも実施しており，最近では年間に約 30 件の調査を行っています。収蔵庫には現在，これまで調査してきた遺跡から出土した遺物が，縦 590 ㎜×横 380 ㎜の灰色のテン箱に入り，約 7000 箱収蔵されています。

博物館実習・職場体験

大学では，学芸員の資格を取るためのカリキュラムとして，博物館に行って実務を行う博物館実習があります。その実習をセンターでは，1995（平成 7）年度から実施しています。展示資料の取り扱い方として展示ケースの清掃や，調査研究のための資料製作の手伝いなどを内容として行っています。また，実習生たちで企画から展示方法までを考えて行う，大型資料収蔵庫での展示を毎年実施しています。中学生の職場体験は 1994（平成 6 年度から受け入れています。出土した土器の洗浄や遺物の注記など，センターの仕事の手伝いをしながら，どんな仕事をしているのかを体験してもらっています。普段は触ることができない本物の土器に触れ合えるということもあり，みんな眼を輝かせて体験をしています。

ポスター展　企画展の歩み

開館30周年を迎えたことを記念して，企画展のポスターを展示して振り返る特別展を開催しました。

企画展は，2007（平成19）年度から開催しており，公開講座「ひたちなか市の考古学」と内容を連動した展示や，これまでの調査研究の成果などを，市内の出土資料や他機関から借用してきた資料を利用して実施してきました。これまでに，縄文時代を5回，弥生時代を3回，古墳時代を5回，奈良・平安時代を5回と，過去に発行していた年報のフィールドノートについての企画展を行い，2023年度で第20回となります。センターでは企画展の他に，展示ケース1つを使いミニ展示を行うワンケースミュージアムも2006（平成18）年度から年に3回程実施しており，第59回までを今年度実施しました。ポスターは，企画者が展示内容と合わせて展示資料をのせてデザインし，製作したものです。企画展が終了すると日の目を見ないポスターですが，30周年という節目に，全てのポスターを展示し，企画展の内容解説をする展示にしました。

公開講座・遺跡めぐり

公開講座は，市民の方々に埋蔵文化財や郷土の歴史について理解を深めていただくために，1994（平成6）年度から開催しています。最初は，「やさしい埋蔵文化財講座」と題して，講師4人の方に講座をお願いしていました。その後，2007（平成19）年度に「ひたちなか市の考古学」に名称を変更し，2023年度で第16回となります。この公開講座は，内容を文字起こしし，記録集として刊行しています。遺跡めぐりは，遺跡のバスツアーを実施してほしいという多数の意見があり，1996（平成8）年度から実施しています。この遺跡めぐりでは，県内の遺跡のほか，隣接する他県にも訪れることがあります。自分ではなかなか訪れることがない遺跡を，解説付きでめぐることができるので，毎年多くの方に応募していただいています。

ふるさと考古学

センターでは開館当初から，「夏休み親子歴史教室」で遺跡を歩き遺物を採集したり，土器の拓本をとるなどの事業を行っていました。そして，2006（平成18）年度からは，「ふるさと考古学ー遺跡と人のワークショップー」が始まり，小学4年生～中学3年生対象の講座を実施しています。ふるさと考古学は，遺跡やものを通して生活と文化を学ぶ講座です。土器や石，ガラス，骨，貝など様々な分野の専門家と一緒に，実際に見て触れて，作って使ってと，自分たちで考えて学んでいく内容となっています。8月～12月の間で年に12回程の講座を行っており，これまでに138回の講座を開催しました。かつてふるさと考古学を受講した子供たちが，大人になり考古学に携わる仕事をしているという嬉しい報告もあります。

自分の発掘歴の中で発掘漬けの昭和四三年は、発掘参加約百日で、発掘遺跡は一三遺跡に及んだ。これでは大学どころではない。それでも暮の一二月一三日から二〇日まで、流山市東深井古墳群の調査に参加した。野田市立博物館下津谷館長が団長で、川井正一氏や立正大学の野尻侃・河地俊幸・福間元・渋谷興平君等が参加（毎回タイトル下の筆者写真はこの古墳調査の時のもの）。調査した古墳からは人物埴輪等が出土し、現在流山市立博物館に収蔵・展示されている。またこの古墳群は、古墳公園として整備され、市民の憩いの場となっているという。発掘期間中に当時テレビ講座で有名だった樋口清之先生が視察に来訪された。その後の昭和五二年に私の結婚が決まり、樋口研究室（考古学第一研究室）へ挨拶に伺うと、樋口先生からお祝いと色紙二枚をいただいた。その一枚の色紙には「林中不売薪」と書かれており、「家庭では考古学の話ばかりしないように」と諭された。

年が明けた昭和四四年一月一八日、全共闘を主体とする学生が、大学運営の民主化等を求めて東大本郷キャンパスの安田講堂を占拠する事件が起きた。講堂を占拠していた学生達から機動隊に向けて火炎瓶が投げられ、この騒動のテレビ中継を私は食い入るように見た。この騒動では火炎瓶のほかさまざまなものが投石として使用されたようだ。騒動が終結して暫くたつと、神田あたりの骨董屋の店先に東大所蔵の考古資料が並んでいたと大学関係者から聞いたことがあった。

私的茨城考古学外史―遺跡・人　出会いと別れ―

第９回　発掘三昧への道　県外編４

東京都・和歌山県・静岡県・千葉県

瓦吹　堅

三月下旬の旧八郷町瓦塚瓦窯跡調査（『埋文だより』58号）の後、三月二八日から五月六日まで柏市中馬場遺跡の調査に参加した。

遺跡は手賀沼の北側台地上にあり、北柏駅新設に関わる調査だった。この期間何日かは用事で現場を離れたが、検出遺構も多く、特に当時弥生時代後期で楕円形状の住居跡から出土した弥生土器が注目された。時々指導のため武蔵野手打ちうどん博士で國學院大學考古学資料館の加藤有次先生も参加された。参加学生は高橋一夫・日下治氏等先輩と、舘野孝・山下房子・横尾康子君達後輩。宿舎は柏駅南の旧水戸街道沿いにある水戸屋旅館。この頃、若木考古学会の学会旗を新調したが、その学会旗を持ち出し、中馬場遺跡で発掘していた我々学生の前で「行政発掘反対！緊急発掘反対！」などとシュプレヒコールした先輩もいたが、この頃他の大学でも緊急発掘反対の学生運動が起こっていた。この調査の時、誰かがグリーンベレーを被って調査に参加した。調査担当の古宮隆信先生がそれを気に入り、発掘の主要メンバー分を購入して配ってくれた。この頃我々の現場ファッションは、ヤッケにグリーンベレーとキャラバンシューズで、その後もしばらくはグリーンベレーを被って発掘していた。この遺跡の発掘調査は、私が離脱してからも細々と続いていたようだが、初冬の頃古宮先生から呼び出しが掛かり「何日でも良いので、中馬場の整理をしてほしい」といわれた。古宮先生は私の住む西武池袋線の中村橋駅から常

磐線南柏駅までの一か月定期券を購入。私はその定期券で時々南柏へ通った。南柏駅からは光ケ丘経由のバスでヘルスセンターのような施設へ行き、その一室で実測などの作業をし、時には宿泊もした。施設の入口右側には管理員室があり、施設管理を委託されたご夫婦がおられた。管理人さんに事前に宿泊を伝えると、大きな風呂を沸かしておいてくれ、料理好きなご主人に招かれ、夕食も何度かビール付きでご馳走になった。奥さんは大柄の人だったが、いろいろ話す内にあのドリフターズメンバー高木ブー氏のお姉さんだと知った。調査や整理で指導を受けた古宮隆信先生は、平成二三年一月一七日鬼籍に入られた。

その後茨城県内の調査に多く参加（別号に後述）したが、昭和四七年一〇月一日から一二月九日には住宅団地造成に伴う我孫子市久寺家遺跡の調査に参加し、下津谷団長の下で現場を指揮した。遺跡は布施弁天入口のバス停から東にかなり離れた林の中の畑で、宿舎は現場脇に建てられた造成業者のプレハブ。調査参加者には食事が提供され、夕食時には手頃な焼酎「白波」をよく飲んだ記憶がある。発掘には田宮一典・北村誠・竹崎真夫・藤枝政幸・藤井裕紀枝・辻和成君等が参加し、この遺跡が終了するとすぐに流山市下花輪第2遺跡の調査に移動した。この遺跡は野田線初石駅から徒歩一〇分ほどの畑地で、遺跡内にはプレハブの事務所が建てられ、昼食は雇われたおばちゃんの料理だった。この遺跡は昭和四八年三月まで三次に渡って調査が実施され、参加者は久寺家遺跡から移動してきた学生が多かったが、新たに国士舘大学から新井和之君や水野順敏・松田政基・鈴木美治君等が参加し、彼らとは現在でも交流が続いている。昭和四三年に桶川市西小遺跡の見学に来た時は中学生だった新井君は大学生になっていた。この遺跡で私は初めて地下式坑の調査を体験したが、その後茨城県内でも調査例が増加した。我々は時々「頑張ろう宴会」を開催した。この宴には某女子大生の新井君の姉上を招待して開催し、楽しい一時を過ごした。私の茨城県外での発掘参加は、昭和五〇年以降一四遺跡に及んだが、この遺跡で幕を閉じた。

樋口先生の色紙

愛称：らんたろう

2023.10.21

ひたちなか海浜古墳群出土の人骨（2）

国立科学博物館　梶ケ山　眞里

二回目は、磯崎東古墳群のうち29号墳（一九九〇年調査）と臨海部の崖面の五基の石棺墓（二〇一一年・二〇一五年・二〇一六年調査）計六地点の発掘調査で出土した人骨について報告する。最後に、前回の入道古墳群出土人骨について要約した。（紙面制限の為簡易なものになった。）

【29号墳】 29号墳から検出された人骨は、成人の左踵骨三点と小児の左踵骨が検出されていることから、少なくとも四体の被葬者が埋葬されている。

頭蓋骨：二点ある頭蓋のうちの一つ（No.48）個体①は、頭蓋形が楕円形に近く、長幅示数は長頭（70.1）に属する。頭蓋三主縫合の走向は単純で、一部で癒合が始まっている。後面の外後頭隆起の突出は強くない。側面観では側頭線の前半部分は顕著であるものの、連続する乳突上稜の発達は強くない。外耳孔は大きな楕円形である。乳様突起は大きく、先端は丸みを帯びている。前面観では、眼窩上縁は直線的で、前頭骨頬骨突起は太い。眉間や眉弓はやや隆起するが顕著なものではない。鼻根部への湾入は弱く平坦である。鼻背は外反していない。梨状口の全形は不明である。保存されている部分から、鼻幅は広い（32.0）。同一個体の属する下顎骨（No.49）は、左下顎枝以外良好な保存状態である。下顎体は高く頑丈である。歯の脱落はなく、歯槽退縮、歯槽膿漏、齲歯も確認できない。歯の咬耗程度は、大臼歯では象牙質が露出し、壮年期と思われる。

四肢骨：上肢骨では、上腕骨、尺骨、橈骨が確認できる。それぞれの所属は表に示す通りであるが、四体分の部位すべて明確に判分類できるほど残っていない。個体①に属する下腿の骨は、寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨が保存される。寛骨は、腸骨および恥骨部分の一部が破損し、大坐骨切痕の湾入は鈍で大きい。女性個体と思われるものの、寛骨臼が大きい。対応する大腿骨骨頭も大きい。妊娠出産に関連するといわれる耳状面前溝が大きく明瞭であることから、この個体は女性と判断できる。耳状面は隆起が顕著であり、辺縁には骨棘の形成が認められる。恥骨結合面は破損している。壮年半ばと推定される。大腿骨の骨体中央部は傷みが強く骨体周は計測不可能である。それでも骨体は古墳時代女性としては太い。骨端の下間窩も女性としても大きい。脛骨および腓骨の最大長は340㎜で、そこから算定される推定身長は152.7㎝である。古墳時代女性平均151㎝をやや上回る。

個体②は、No.17とNo.6の大腿骨、No.8、No.9の左右脛骨、No.41尺骨に代表される非常に強壮な個体である。大腿骨最大長は不明であるが、右尺骨最大長から算定される推定身長は160㎝である。左右脛骨の骨体断面は骨間縁の強い発達により、三角形を呈する。B個体の踵骨が四個体の中で最も大きい（No.12）。寛骨の保存状態が不良であるため年齢や性別の詳細は困難であ

写真１　磯崎東古墳群出土人骨（頭蓋）

遺構名 / 個体名		個体数	残存状態	性別	年齢	残存部位 頭	四肢骨	その他	埋葬状態	備考	推定身長（cm）
1990-29 号墳	①	4	A	女性	壮年	○	◎	○	出土状態不明	妊娠出産痕明瞭、大柄、大腿骨体太い	152.7
	②		(A)	男性？	壮年	◎	◎	○		No.6、No.17 に代表される強壮個体	160 前後
	③			男性	壮年					No.5 に代表される強壮個体	160 前後
	④		C	不明	小児	○	○	○		歯、下肢骨、足根骨	
2011-1 号石棺墓		1	B	女性	熟年	○	○	○	伸展葬　頭位北		
2015-2 号石棺墓	①	2	A	男性	壮年（初期）	◎	◎	○	並列伸展葬	2 個体の頭骨はベンガラにより赤く染まる上層人の胸骨、石棺外にベンガラ付着	158.6
	②		A	男性	青年	◎	◎	○	頭位北		161.1
2016-1 号石棺墓		1	C	女性	壮年	◎	○	○	伸展葬　頭位北		
2016-3 号石棺墓		2	A	女性	壮年（初期）	◎	◎	○	伸展葬　頭位北		150.6
			B	不明	幼児	○	○	○	集骨？	３～４才幼児個体	
2016-6 号石棺墓		1	A	女性	熟年	○	◎	○	伸展葬　頭位北	大腿骨　骨体超扁平	148.4

★保存状態 A：良好 B: やや良好　★保存部位 ◎完形のものあり ○完全ではないが部位は保存

表１　磯崎東古墳群出土人骨一覧表

＊坂上・梶ケ山報告文献：Human skeletal remains of the Kofun period excavated from the Hitachinaka seaside tumulus cluster, Ibaraki Prefecture（Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. D, 48, pp. 11.28, December 23, 2022）

るが、踵骨の大きさなどから性別は男性、年齢は壮年期と判断する。

個体③は、NO.5の右大腿骨に代表され、最大長は40㎝で、その形態は個体②のNo.6と類似している。性別は男性の可能性が高い。年齢は、歯の保存も成人三体とも類似した咬耗程度であることから壮年期である。

個体④は、小児個体で六才～一〇才程度の未成年と推測される。

なお、個体②の大腿骨遠位端の後面には若い頃の骨折治癒痕が確認できる。

【2011-1号石棺墓】 この石棺に埋葬された被葬者は、熟年女性と推定される。

頭蓋骨は、前頭骨および顔面頭蓋が保存されている。冠状縫合は外板では癒合が進んでいる。内面観は消失して痕跡はない。側頭骨の乳様突起はやや大きく、外耳孔は縦長楕円形である。眉間や眉弓の隆起はわずかに認められる程度である。鼻根部は平坦である。鼻背の隆起はそれほどでもない。眼窩形は隅丸方形で、眼窩上孔は左右に開存し、前頭骨頬骨突起はやや下に垂れている。顔面骨格は低く幅が狭い。右頬骨弓幅はおおよそ127㎜で狭い。それは中顔幅101㎜からも推測でき、（ウィルヒョウ上顔示数64.4）低顔に属する。鼻根部は広く、平坦である。梨状口は幅広く、鼻示数は過広型である。梨状口の下縁は鋭角。上顎体の前面は、特に左眼窩下孔直下部に深い陥没がみられ、左上顎犬歯窩には多孔質状の変形がある。これは、菌の繁殖により歯槽骨が崩壊し凹んだものであろう。右側にはない。しかし、右下顎骨の対応する歯槽骨には歯槽膿漏包の痕跡を確認できる。口腔内環境が非常に悪かったことが推測できる。頬上顎結節はなく、上顎骨の頬骨下縁は緩やかに湾曲し頬骨へ続く。上顎骨は左右とも大臼歯が生前に脱落し、歯槽の退縮が著しい。下顎骨は、左下顎体の一部が破損している。左下顎角は外反せず、下顎枝幅は（33.5）中程度である。なお、下顎左右に下顎隆起が顕著に認められる。歯の保存状態は以下の歯式の通りである。保存されている歯の咬耗程度は、象牙質が面状に擦り減っていることから、年齢は熟年である。

躯幹骨では、椎骨、肋骨、胸骨が保存されている。椎骨のなかの、腰椎の椎体辺縁には骨棘が形成され、加齢傾向が見受けられる。

左鎖骨の骨体は細く、全体的に華奢である。寛骨は左恥骨部分が保存されて、輪郭は明瞭である。

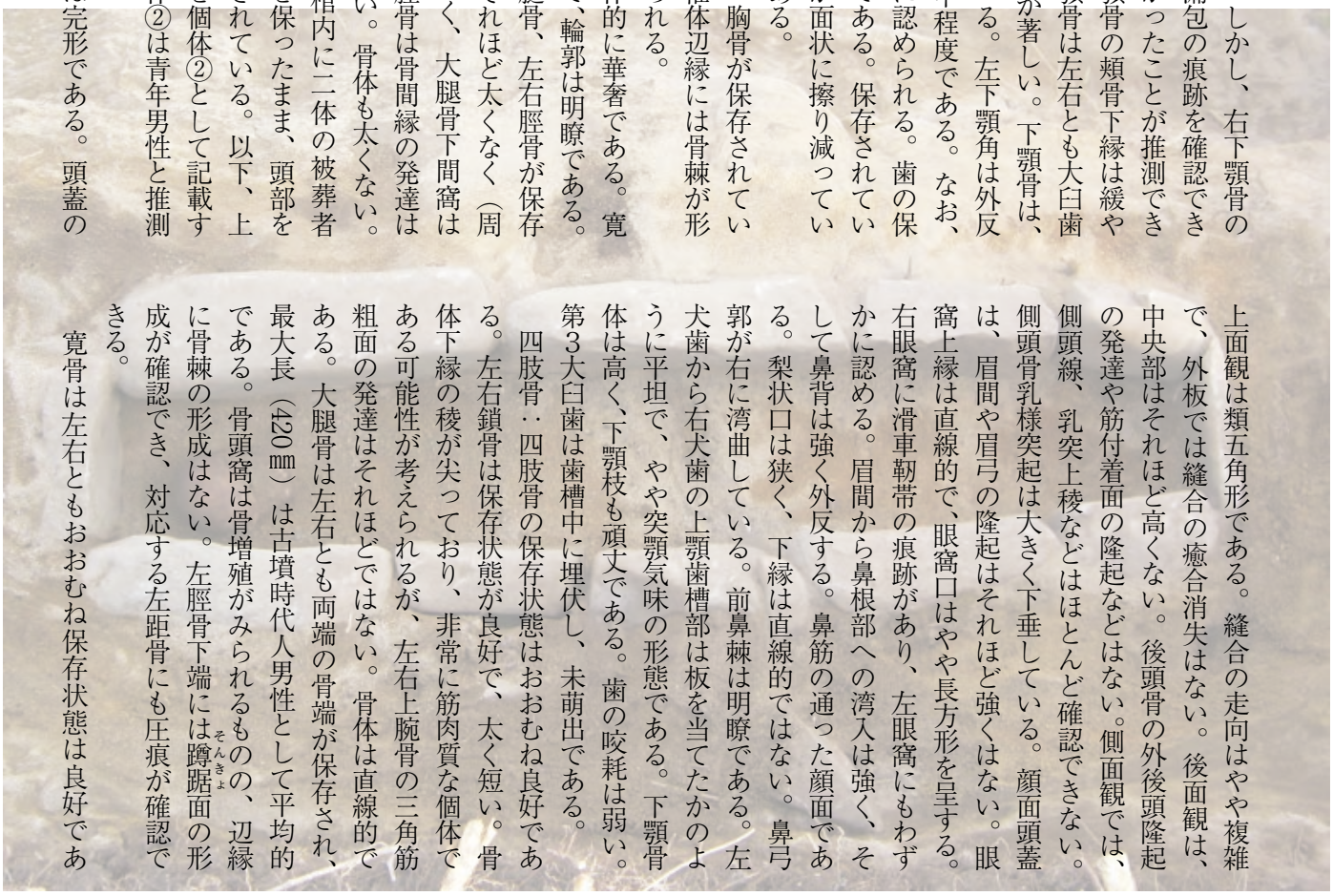
自由四肢骨では、左右大腿骨、左右脛骨が保存されている。大腿骨骨体はそれほど太くなく（周80㎜）、後面粗線の発達も弱く、大腿骨下間窩は狭く、女性の特徴である。脛骨は骨間縁の発達は弱く、骨体断面の扁平性はない。骨体も太くない。

【2015 - 2号石棺墓】 石棺内に二体の被葬者が、おおむね解剖学的配列を保ったまま、頭部を北側に、上下に重なり検出されている。以下、上の人骨を個体①、下の人骨を個体②として記載する。個体①は壮年男性、個体②は青年男性と推測される。

個体①頭蓋：頭蓋骨はほぼ完形である。頭蓋の上面観は類五角形である。縫合の走向はやや複雑で、外板では縫合の癒合消失はない。後面観は、中央部はそれほど高くない。後頭骨の外後頭隆起の発達や筋付着面の隆起などはない。側面観では、側頭線、乳突上稜などはほとんど確認できない。側頭骨乳様突起は大きく下垂している。顔面頭蓋は、眉間や眉弓の隆起はそれほど強くはない。眼窩上縁は直線的で、眼窩口はやや長方形を呈する。右眼窩に滑車靭帯の痕跡があり、左眼窩にもわずかに認める。眉間から鼻根部への湾入は強く、そして鼻背は強く外反する。鼻筋の通った顔面である。梨状口は狭く、下縁は直線的ではない。鼻弓郭が右に湾曲している。前鼻棘は明瞭である。左犬歯から右犬歯の上顎歯槽部は板を当てたかのように平坦で、やや突顎気味の形態である。下顎骨体は高く、下顎枝も頑丈である。歯の咬耗は弱い。第3大臼歯は歯槽中に埋伏し、未萌出である。

四肢骨：四肢骨の保存状態はおおむね良好である。左右鎖骨は保存状態が良好で、太く短い。骨体下縁の稜が尖っており、非常に筋肉質な個体である可能性が考えられるが、左右上腕骨の三角筋粗面の発達はそれほどではない。骨体は直線的である。大腿骨は左右とも両端の骨端が保存され、最大長（420㎜）は古墳時代人男性として平均的である。骨頭窩は骨増殖がみられるものの、辺縁に骨棘の形成はない。左脛骨下端には蹲踞（そんきょ）面の形成が確認でき、対応する左距骨にも圧痕が確認できる。

寛骨は左右ともおおむね保存状態は良好であ



磯崎東古墳群第 2016-1 号石棺墓写真

る。大坐骨切痕（たいざこつせっこん）の湾入は鋭角であり、耳状面の形態は男性である。恥骨結合面は水平の畝が顕著であるものの、上部腹側に骨増殖ができ始めている。特に、興味深い特徴として、仙骨の関節突起および第5腰椎の関節突起が直線的である。腰を固定した関節の特殊な動作・作業を行っていたと思われる。

推定身長：大腿骨の最大長から算定される推定身長は158.6㎝であり、古墳時代男性平均値をやや下回る。

年齢・性別：この個体の年齢は歯の咬耗程度は弱く、第3大臼歯が未萌出だが、四肢骨の骨端の癒合が完了しているので壮年初めと推定し、性別は男性である。

個体②頭蓋：最大長180㎜を超える。三主縫合は冠状縫合、矢状縫合とラムダ縫合の一部が保存され、内板および外板で開いている。側頭骨の乳様突起は大きい。外耳孔は大きな楕円形を呈する。顔面頭蓋では、眉間や眉弓の隆起は認められない。眼窩上縁はやや曲線を描き、眼窩上三角の部分は薄い。眼窩口は隅丸の長方形を呈する。右眼窩滑車靭帯の痕跡があり、左眼窩にもその痕跡を認める。鼻根部への湾入は弱く、平坦気味である。鼻背は破損している。鼻根部は上層人骨よりも外反が弱く、幅は小さい。鼻弓郭が個体①同様に右に湾曲している。梨状口下縁は鈍で前鼻棘の発達は弱い。個体①同様に梨状口下縁から上顎骨はあたかも板を当てたように平坦である。下顎骨は、オトガイ隆起が認められ、下顎体は高く、下顎枝幅も広く（右39）頑丈な下顎骨である。第3大臼歯が上下左右とも未萌出である。若い個体のため眉間や眉弓の隆起は弱く、女性的な顔面の印象である。横への張り出しが弱く、顔高が高く、スマートな顔面となっている。

四肢骨：残存する上腕骨、橈骨、大腿骨、脛骨、腓骨は骨端が未癒合である。大腿骨の最大長は上下とも骨端とともに計測した。43㎝～44㎝であり、東日本古墳時代男性平均値を少し下回る。四肢骨は各部位とも骨体はそれほど太くなく、筋付着面は明瞭ではない。大腿骨の後面骨体上部に殿筋粗面の窪みはなく、若いとはいえ一五才以下の年齢ではない。

寛骨は恥骨が癒合完了したばかりで癒合線が残存している。恥骨結合面は水平の畝が明瞭に確認される。骨棘や増殖はない。寛骨臼は大きく深い。大坐骨切痕の湾入は中程度である。

躯幹骨：脊椎骨では、腰椎5点保存されている。椎体の関節面は癒合しておらず、椎体の辺縁は未癒合の特徴である放射状に溝が形成されている。頚椎、胸椎は保存が悪く、細片あるいは粉末化している。

推定身長：大腿骨の最大長から算定される推定身長は161.1㎝であり、古墳時代男性平均値よりわずかに低い。

年齢・性別：四肢骨の骨端が未癒合で、第3大臼歯が未萌出である。また、恥骨結合面が若い段階の形態であることから、年齢は青年と判断する。性別は男性である。

なお、個体①、個体②の各頭部を中心とした上半身にはベンガラで染まった箇所が確認できる。特に個体①の頭蓋は赤く染まっている範囲が広い。また、石棺外の左長辺の石の上にはベンガラで染まった胸骨が置かれていた。

【2016 - 1号石棺墓】 頭蓋骨：顔面が大きく破損している。前頭骨から頭頂骨、後頭骨が保存され、全体的に小さく、側頭骨乳様突起や外耳孔も小さい。側頭筋付着部や後頭骨項平面はなめらかで隆起がない。縫合は消失が進んでいる。下顎骨は左右下顎枝と下顎体の一部が保存されている。下顎枝幅は狭く（27㎜）、下顎体も頑丈ではない。歯の咬耗は、下顎大臼歯はわずかに象牙質の露出がある。

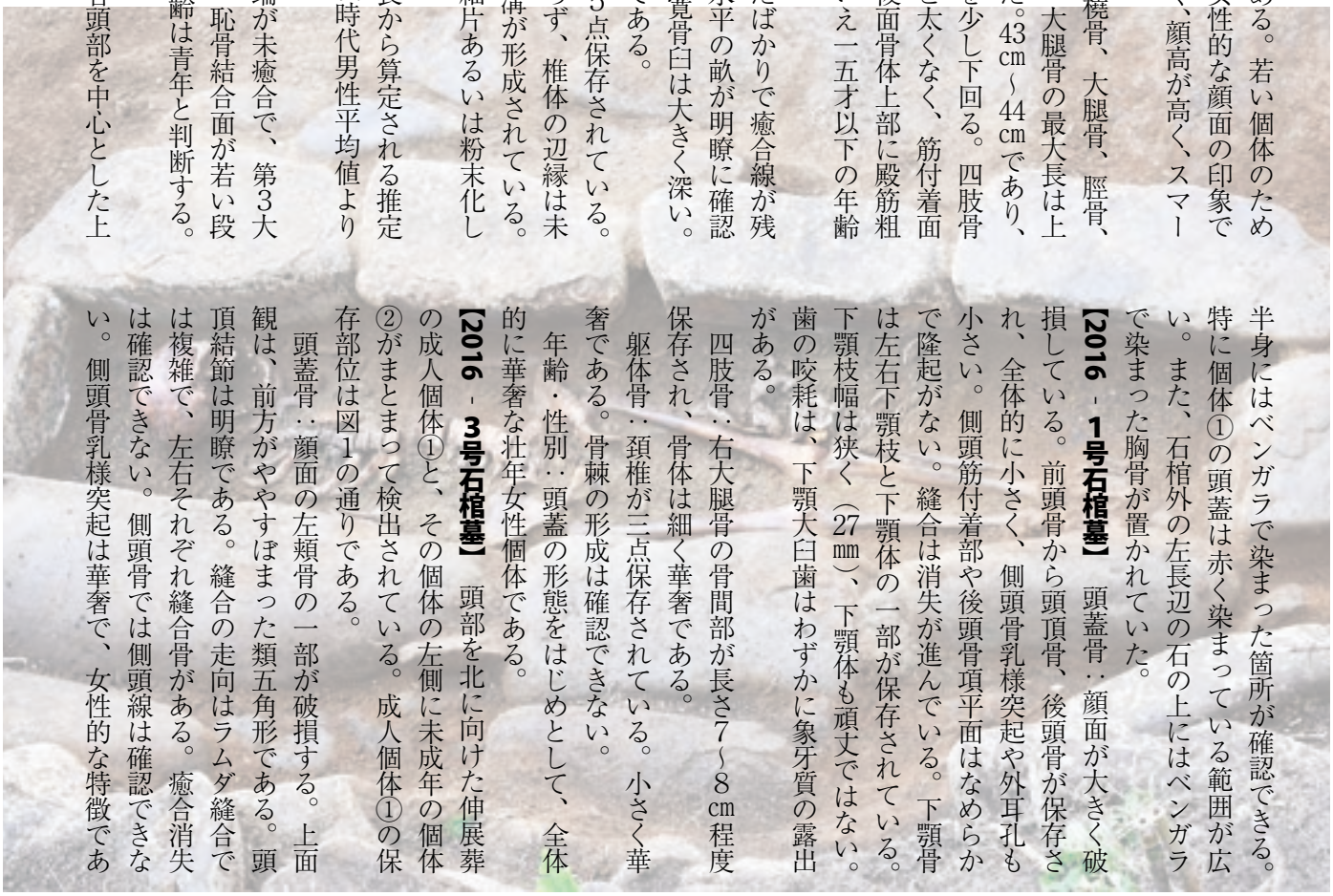
四肢骨：右大腿骨の骨間部が長さ7～8㎝程度保存され、骨体は細く華奢である。

躯体骨：頚椎が三点保存されている。小さく華奢である。骨棘の形成は確認できない。

年齢・性別：頭蓋の形態をはじめとして、全体的に華奢な壮年女性個体である。

【2016 - 3号石棺墓】 頭部を北に向けた伸展葬の成人個体①と、その個体の左側に未成年の個体②がまとまって検出されている。成人個体①の保存部位は図1の通りである。

頭蓋骨：顔面の左頬骨の一部が破損する。上面観は、前方がややすぼまった類五角形である。頭頂結節は明瞭である。縫合の走向はラムダ縫合では複雑で、左右それぞれ縫合骨がある。癒合消失は確認できない。側頭骨では側頭線は確認できない。側頭骨乳様突起は華奢で、女性的な特徴であ



磯崎東古墳群第 2016-3 号石棺墓写真

る。前頭骨の立ち上がりは垂直であり、左右とも頭頂結節が顕著である。外後頭隆起は確認できない。顔面頭蓋では、眉間や眉弓の隆起も弱く、鼻根部の陥入はほとんどなく平坦である。梨状口はやや広い。下縁の状態は破損のため不明である。右頬骨はそれほど横方向に張り出してはいない。上顎中切歯はシャベル形が強い。第3大臼歯は上下とも萌出しているものの、咬耗程度はそれほど強くない。下顎右第1大臼歯の歯槽部には歯槽膿漏の痕跡がある。

四肢骨：上肢骨の保存は良好とは言えない。左右鎖骨の近位端の癒合は完了していない。三〇才前と思われる。下肢骨は全体として細く華奢である。大腿骨の後面粗線の発達はそれほど強くなく、骨体上部は扁平気味である。大腿骨骨頭窩の増殖はなく、辺縁部の骨棘形成もなく、経年変化は見られない。脛骨の骨体は扁平気味である。骨体下端の距骨に対応する関節面の延長があり、軽度の蹲踞面が確認できる。

寛骨は、左右とも腸骨の一部が破損している他は坐骨、恥骨も保存されている。大坐骨切痕の湾入は大きく、また、耳状面の形態などから性別は女性と推測される。恥骨結合面は並列状の畝が明瞭で、また、耳状面の辺縁には骨増殖はない。耳状面には細かい小孔がわずかにみられる。妊娠出産に関連するといわれる耳状面前溝が確認される。

推定身長：大腿骨の最大長から推定される身長は150cmを超え、古墳時代女性平均値に準ずる。

年齢・性別：鎖骨骨端が未癒合であり、寛骨恥骨結合面や耳状面、歯の萌出状況や咬耗状態から、二〇才代から三〇才前の壮年前半と思われる。

個体②は、明らかに部位がわかるものは頭蓋骨の頭頂部付近と側頭骨左右錐体と、乳歯および右鎖骨である。それ以外は左右不明の大腿骨骨間と椎体の一部と未癒合の椎弓が保存されている。

下顎犬歯の歯冠は形成しはじめ、第1大臼歯の歯冠は形成途中である。上顎中切歯、左側切歯の歯冠も形成が始まったばかりである。

以上のことから、この個体の年齢は三才～四才程度の幼児個体である。個体①との血縁関係が興味深い。

【2016 - 6号石棺墓】 頭部を北側にした伸展葬である。保存状態は図の通りである。

この個体の性別は女性で、寛骨の恥骨結合の状態から年齢は熟年以上と思われる。

頭蓋骨：上面観は、破損のため全体的な頭蓋形は不明であるものの、頭頂部付近の幅が広く、類五角形に近い。冠状縫合や矢状縫合が、外板および内板で癒合し消失している。内板の静脈溝の圧痕は強い。右側頭骨の乳様突起は大きく、外耳孔は大きな円形を呈する。乳突上稜は隆起する。右頬骨弓は頑丈であるが、側頭筋の発達は確認できない。顔面では、眉間や眉弓の隆起は緩やかに認められる。眼窩は隅丸方形である。鼻根部への湾入は弱く、鼻根部から鼻背への隆起は外反している。梨状口は広く、下縁は鈍である。前鼻棘の発達も強くない。下顎骨は左下顎体の一部と下顎枝部分が破損している。オトガイ部分の隆起はない。下顎体は全体的に頑丈である。歯の咬耗は、象牙質が面状に露出している。生前に脱落し歯槽が閉鎖している箇所は部分的である。歯槽の退縮はない。

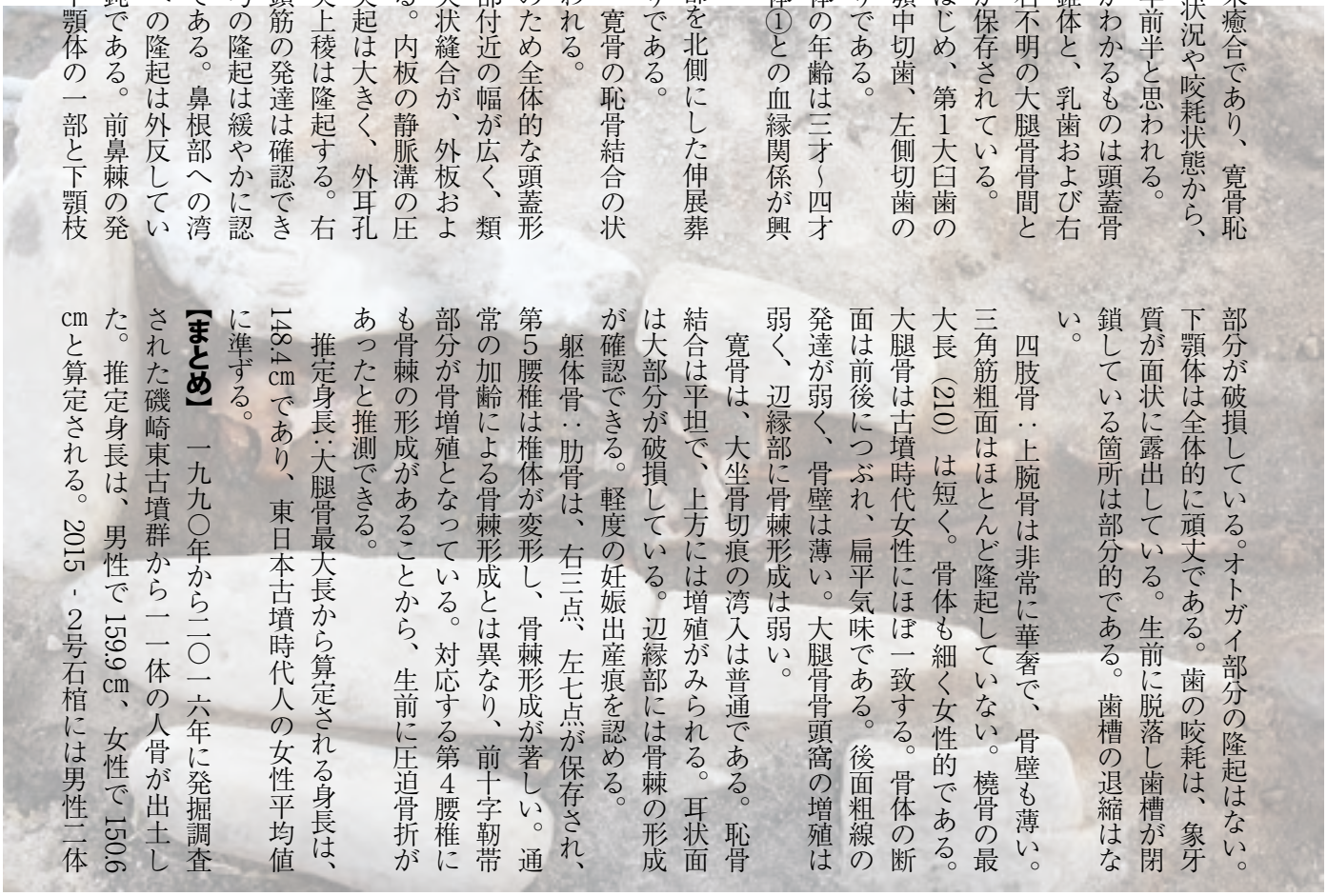
四肢骨：上腕骨は非常に華奢で、骨壁も薄い。三角筋粗面はほとんど隆起していない。橈骨の最大長（210）は短く。骨体も細く女性的である。大腿骨は古墳時代女性にほぼ一致する。骨体の断面は前後につぶれ、扁平気味である。後面粗線の発達が弱く、骨壁は薄い。大腿骨骨頭窩の増殖は弱く、辺縁部に骨棘形成は弱い。

寛骨は、大坐骨切痕の湾入は普通である。恥骨結合は平坦で、上方には増殖がみられる。耳状面は大部分が破損している。辺縁部には骨棘の形成が確認できる。軽度の妊娠出産痕を認める。

躯体骨：肋骨は、右三点、左七点が保存され、第5腰椎は椎体が変形し、骨棘形成が著しい。通常の加齢による骨棘形成とは異なり、前十字靭帯部分が骨増殖となっている。対応する第4腰椎にも骨棘の形成があることから、生前に圧迫骨折があったと推測できる。

推定身長：大腿骨最大長から算定される身長は、148.4cmであり、東日本古墳時代人の女性平均値に準ずる。

【まとめ】 一九九〇年から二〇一六年に発掘調査された磯崎東古墳群から一一体の人骨が出土した。推定身長は、男性で159.9cm、女性で150.6cmと算定される。2015 - 2号石棺には男性二体



磯崎東古墳群第 2016-6 号石棺墓写真

が埋葬され、双方の顔面に眼窩滑車靭帯の痕跡がある。両者に血縁関係のある被葬者である可能性が高い。特に個体①は、立体的な顔立ちで、縄文的な特徴がみられる。また、仙骨と第5腰椎の特徴から、座って舟を漕ぐような動作・作業を日常的に繰り返していたと思われる。

【ひたちなか海浜古墳群出土人骨の特徴】

入道古墳群出土人骨と合わせて一九体の被葬者が確認できる。一九体の年齢は幼児から熟年まで検出され、性別判断が可能な男女の比は7：9とやや女性が多い。四つの石棺墓は単体埋葬であり、その被葬者のすべてが女性であるのは非常に興味深い点である。また、副葬品がほとんどないなかで、鹿角装刀子（ろっかくそうとうす）と鉄鏃（てつぞく）が検出している入道古墳群2020-5号石棺墓の被葬者も女性である。女性優位の集団であった可能性を指摘したい。男性頭蓋三個体、女性頭蓋四個体の平均値を比較三群（南関東古墳時代人・縄文時代人・五松山洞窟遺跡人（ごしょうざんどうくつ））の平均値と間の距離を、簡便な多変量解析法の一種であるペンローズの形態距離の方法で求めてみた。その結果を、表2～5に示した。全体として男女とも縄文時代人よりも明らかに南関東古墳時代人に近い。ただし、男性頭蓋は南関東地方古墳時代人よりも、東北地方宮城県の古墳時代人である五松山洞窟遺跡人にやや近似する。当該遺跡の頭蓋には海洋との関連を示すといわれる明確な外耳道骨腫は認められない。しかしながら、仙骨や腰椎に舟漕ぎ動作を想定される形態の特徴が認められることは非常に興味深い。

現在、一部の個体のDNA分析を進めているが、同一石棺内の血縁関係だけではなく、隣り合う石棺、周辺の石棺からの出土人骨、さらには横穴墓などの被葬者についても総合的に分析を進めていくことが急がれる。

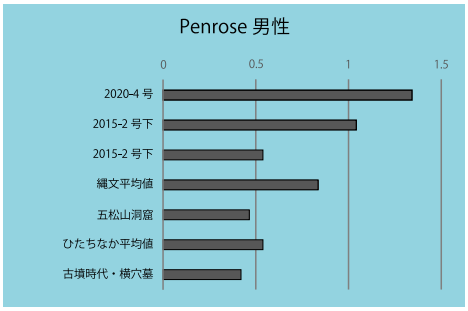


表２　ペンローズ距離（男性）

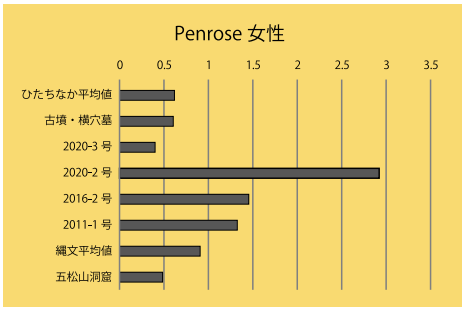


表３　ペンローズ距離（女性）

計測項目	ひたちなか海浜古墳群						古墳・横穴墓		現代人	縄文人	標準偏差
	29 号墳	2015-2 号石棺①	2015-2 号石棺②	2020-4 号石棺①		平均値	男性		男性	男性	男性
	男	男	男	男			平均値	N	平均値	平均値	平均値
1. 頭蓋最大長	189.0	188.0	185.0	178.0		184.0	182.7	33	181.12	184.2	6.03
5. 頭蓋基底長		106.0	102.0	94.8		100.9	101.7	23	101.48	103.1	4.81
8. 頭蓋最大幅	134.0	140.0	145.0	132.0		137.8	142.4	29	139.53	144.8	5.06
9. 最小前頭幅	93.0	96.5	97.0	92.0		94.6	94.4	29	91.14	97.3	4.30
17. バジオン・ブレグマ高		140.0	140.0	144.0		141.3	137.7	22	136.30	135.8	4.54
40. 顔長		96.5	103.0	87.0		95.5	99.7	11	97.51	102.6	5.07
45. 頬骨弓幅		137.0	136.0	131.0		134.7	141.4	14	133.40	141.3	5.84
46. 中顔幅		107.0	96.0	105.0		102.7	102.5	14	98.56	104.0	5.28
48. 上顔高		70.0	66.0	70.0		68.7	70.8	18	68.97	65.6	4.17
51. 眼窩幅 (mf)	47.5	40.0	39.0	40.0		41.6	43.0	25	40.22	43.0	2.04
52. 眼窩高	37.0	35.0	36.0	33.5		35.4	34.4	25	35.13	33.3	1.77
54. 鼻幅	32.0	28.0	24.5	25.5		27.5	27.2	24	25.66	26.6	2.46
55. 鼻高		52.0	45.0	50.0		49.0	51.2	23	52.02	48.3	3.07
57. 鼻骨最小幅	9.5	7.0	6.0	3.0		6.4	7.3	32	7.20	10.2	1.91
FC. 前頭骨弦長 (fmo-fmo)	102.2	97	98.5	94		97.9	98.6	16	97.80	99.6	4.29
FS. 前頭垂線	13.1	13.1	12.2	12.0		12.6	14.9	16	16.30	16.4	2.08
SC. 鼻骨弦長 (鼻骨最小幅)	9.5	7.0	6.0	3.0		6.4	7.3	32	7.20	10.2	1.91
SS. 鼻骨垂線長	1.6	2.8	1.2	0		1.4	2.3	31	2.70	4.6	0.97
ZMC. 頬上顎弦長 (zm-a-zm-a)		104	97.5	104		101.8	99.9	12	97.90	102.8	5.19
ZMS. 頬上顎垂線長		24.5	22.0	23.6		23.4	20.1	12	23.60	22.6	2.80
8/1 頭蓋長幅示数	70.1	74.5	78.4	74.2		74.3	78.4	19	77.00	78.8	2.59
9/8 横前頭頭頂示数	69.4	68.9	97.0	80.9		79.1	66.5	21	67.43	67.0	2.73
17/1 頭蓋長高示数		74.2	75.5	85.7		78.5	75.4	16	75.46	73.3	2.42
48/45 上顔示数（コルマン）		51.1	48.5	53.2		50.9	50.8	11	51.89	47.0	2.77
48/46　上顔示数（ウィルヒョウ）		65.4	68.8	66.7		67.0	69.3	11	70.25	63.1	4.65
52/51 眼窩示数	77.9	87.5	92.3	83.8		85.4	80.1	25	87.39	77.3	4.45
54/55 鼻示数		53.8	54.4	51.0		53.0	53.4	22	49.05	54.8	4.39
FS/FC　前頭骨平坦示数	12.8	13.6	12.4	12.0		9.0	15.1	16	16.70	16.5	1.88
SS/SC　鼻骨平坦示数	16.4	40.0	20.8	0.0		33.2	30.9	31	38.70	45.5	12.78
ZMS/ZMC　頬上顎骨平坦示数		23.6	22.6	22.7		22.9	20.1	12	24.10	22.2	2.99

表４　男性頭蓋計測値及び比較

計測項目	ひたちなか海浜古墳群						古墳・横穴墓		現代人	縄文人	標準偏差
	2011-1 号石棺	2016-3 号石棺	2016-6 号石棺	2020-2 号石棺	2020-3 号石棺②	平均値	女性		女性	女性	女性
	女	女	女	女？	女		平均値	N	平均値	平均値	平均値
1. 頭蓋最大長		170.0		171.0	168.0	101.8	174.4	20	173.14	176.3	7.14
5. 頭蓋基底長	92.0	90.0	107.0	96.0	91.0	95.2	97.5	20	95.78	96.9	4.77
8. 頭蓋最大幅		133.0		132.0	127.0	130.7	137.2	17	134.33	141.8	5.33
9. 最小前頭幅	96.0	82.5	91.5	94.0	88.0	90.4	90.8	18	89.86	95.6	4.27
17. バジオン・ブレグマ高	124.0	118.0		128.0	124.0	123.5	132.0	21	130.33	129.8	4.16
40. 顔長	91.8	86.0		89.0	87.0	88.5	94.9	10	94.50	95.6	5.19
45. 頬骨弓幅	127.0		122.0	122.0	121.5	123.1	131.8	9	125.50	132.9	5.63
46. 中顔幅	101.0		104.0	107.0	94.0	101.5	98.1	7	94.09	99.8	5.63
48. 上顔高	65.0	57.0	70.0	67.5	66.0	65.1	66.6	15	65.36	62.2	4.08
51. 眼窩幅 (mf)	41.0	37.0	40.0	41.0	38.0	39.4	41.1	20	39.26	41.7	1.96
52. 眼窩高	34.0	33.0	35.0	37.0	34.0	34.6	33.5	18	34.70	32.7	1.40
54. 鼻幅	29.0	28.0	29.5	29.0	25.0	28.1	26.7	15	24.87	25.5	1.66
55. 鼻高	46.0	48.0	51.0	53.5	48.0	49.3	48.5	15	49.48	45.0	3.20
57. 鼻骨最小幅	7.0	6.8	9.0	4.0	6.1	6.6	8.0	24	7.40	9.3	1.40
FC. 前頭骨弦長 (fmo-fmo)	97	89	95	101	95.6	95.5	93.5	11	92.60	97.6	3.51
FS. 前頭垂線	17.0	16.6	13.9	5.0	14.1	13.3	13.0	11	14.30	14.4	2.23
SC. 鼻骨弦長 (鼻骨最小幅)	7.0	6.8	9.8	4.5	6.0	6.8	8.0	24	7.40	9.3	1.40
SS. 鼻骨垂線長	1.3	0.82	2.01	1.1	1.79	1.4	1.8	23	2.20	3.2	0.77
ZMC. 頬上顎弦長 (zm-a-zm-a)	99.0		99.5	101.0	94.5	98.5	96.3	5	93.60	101.0	5.01
ZMS. 頬上顎垂線長	20.3		17.5	19.8	19.5	19.3	18.9	12	22.30	21.8	2.28
8/1 頭蓋長幅示数		78.2		77.2	75.6	77.0	78.2	12	77.69	80.4	3.98
9/8 横前頭頭頂示数		62.0		71.2	69.3	67.5	66.2	12	66.96	67.0	3.62
17/1 頭蓋長高示数		69.4		74.9	73.8	72.7	75.1	16	75.39	73.4	3.78
48/45 上顔示数（コルマン）	51.2		57.4	55.3	54.3	54.6	52.3	5	52.04	48.0	3.36
48/46　上顔示数（ウィルヒョウ）	64.4		67.3	63.1	77.4	68.0	68.5	6	69.31	62.3	4.67
52/51 眼窩示数	82.9	89.2	87.5	90.2	89.5	87.9	81.8	18	88.05	78.1	4.14
54/55 鼻示数	63.0	58.3	57.8	54.2	52.1	57.1	55.0	14	50.42	56.1	4.21
FS/FC　前頭骨平坦示数	17.5	18.7	14.7	5.0	14.8	14.1	14.0	11	15.4	14.8	2.16
SS/SC　鼻骨平坦示数	18.8	12.1	20.5	23.6	29.9	21.0	22.2	23	30.6	33.6	10.14
ZMS/ZMC　頬上顎骨平坦示数	20.5		17.6	19.6	20.6	19.6	19.6	5	23.8	21.6	2.41

表５　女性頭蓋計測値及び比較

写真２　磯崎東古墳群第 2015-2 号石棺墓人骨出土状況

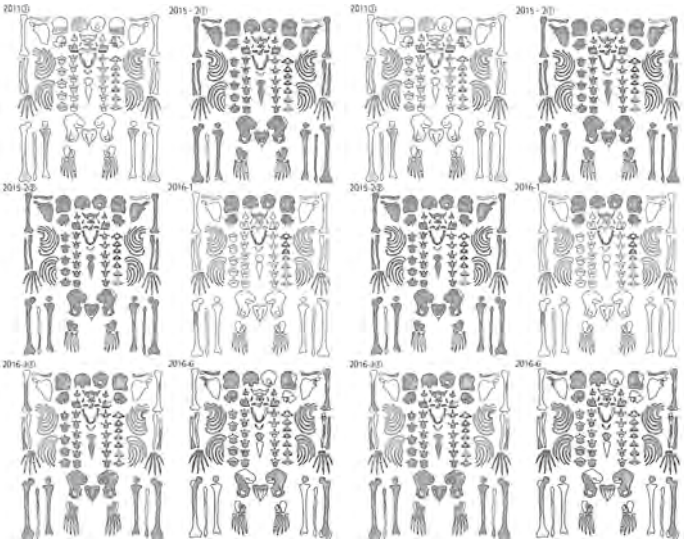


図１　磯崎東古墳群出土人骨保存部位

＊報告文の（1）は『埋文だより』第59号をご覧ください。

＊磯崎東古墳群については『埋文だより』第46号を，ひたちなか海浜古墳群については『埋文だより』第56号をご参照ください。

埋文センターの日々 2023 後期

10月

1-11 金上古墳群・金上塙遺跡試掘調査開始／15 ふるさと考古学⑦「十五郎穴で遺跡と地図を考える」（講師：三井猛氏・梅田由子氏・さかいひろこ氏）／17-24 磯合古墳群試掘調査／19 市生涯学習講座1「虎塚古墳と十五郎穴」・十五郎穴地権者説明会↲

／22 ふるさと考古学⑧「遺跡を守る2 虎塚古墳」（講師：鈴木康二氏・さかいひろこ氏）／24-勝倉若宮遺跡試掘調査開始／24 虎塚古墳石室点検／**26** フジテレビ「世界の何だコレ！?ミステリー」取材

11月

1 特別展「祝！十五郎穴が国指定史跡へ」開始・金上古墳群・金上塙遺跡試掘調査・勝倉若宮遺跡試掘調査終了・来館記念グッズ販売開始・NHK水戸「いば6」生放送↲

／2-5・9-12 虎塚古墳一般公開／2・3・5・9 はとバス団体見学↲

／3 ふるさと考古学⑨「みんなで守る！虎塚ワークショップ」（講師：さかいひろこ氏）／6 勝田中等教育学校見学／**9** 埼玉県立博物館友の会・大みかコミュニティ団体見学／**10** 中根小学校見学（下段写真）・JWAY取材／**11 ふるさと考古学⑩「アートと考古学」（講師：安芸早穂子氏・さかいひろこ氏）／12** クラブツーリズム見学／**16** 市生涯学習講座2「海を望む古墳群ひたちなか海浜古墳群」／**17** 沢田遺跡解説パネル貸出（国営ひたち海浜公園）／**21-26** 博物館実習（八州学園大学）↲

／21-下高井遺跡本調査開始／24-26 筑波大学大学院鎌田涼氏資料調査【磯崎東古墳群出土ガラス小玉ほか】／**25 ふるさと考古学⑪「フィールド探検」（講師：矢野徳也氏・さかいひろこ氏）**↲

虎塚古墳花便り 32

シロツメクサ

今回ご紹介する花は、よく見かける「シロツメクサ（白詰草）」です。シロツメクサはマメ科シャジクソウ属の一年草で、ほぼ全国に生育しています。もともとはヨーロッパの植物で、最初は江戸時代にオランダからガラスの器物を箱に入れて運ぶ際にこの草の枯れたものを詰め物として使用されたことから、この名前がつきました。その後は牧草などとして輸入されたものが定着・分布拡大したとされています。葉は、たまご形が三つ集まった形で、白い模様がついていることが多く、四つ集まった形のものはお馴染みの「四葉のクローバー」とよばれています。花は白く、小さい花がたくさん集まって、一つの丸い花に見えます。花の咲く時期は五月から八月頃です。

今回はとっても身近な花を取り上げました。身近だからこそ皆さんが見かけたときに注目していただければ幸いです。

2022.6.23

／28-市毛下坪遺跡試掘調査開始

12月

2 文化財室第2回文化財講座「国指定史跡に迫る 虎塚古墳と十五郎穴」

・特別展「ポスター展」開始／3 センター開館30周年・ふるさと考古学⑫「楽しいよ！考古学」（講師：さかいひろこ氏）／5-7 磯合古墳群試掘調査／7 千葉県神崎町教育委員会見学／13-20 塙坪遺跡試掘調査／-14 市毛下坪遺跡試掘調査終了／17 石岡市教育委員会資料調査【縄文土器】／21 市生涯学習講座3「古墳時代のはじまり」／24 島根大学岩本崇氏資料調査【磯崎東古墳出土鏡・鉄鏃】／27 水戸市水城高校2年生虎塚古墳・十五郎穴の取材（下段右）

1月

10-13 津田若宮遺跡試掘調査／-16 下高井遺跡本調査終了／16-23 二ッ森古墳群試掘調査／18 市生涯学習講座4「弥生時代の墓から出土する玉製品」／19 JWAY十五郎穴の取材（オスペンギン）

／23-24 向野E遺跡試掘調査／27 ふるさと考古学補講（案内看板づくり）／-28 特別展「祝！十五郎穴が国指定史跡へ」終了／30-市毛上坪遺跡試掘調査開始

2月

-8 市毛上坪遺跡試掘調査終了／8 田彦小学校3年生出張授業【虎塚古墳について】／10 市立佐野図書館ふるさと講座「虎塚古墳と十五郎穴横穴群」／14-28 田彦古墳群試掘調査／15 市生涯学習講座5「ひたちなか市の生産遺跡・原の寺瓦窯跡」／17 ひたちなか市の考古学第16回①「古代陸奥南部の集落と開発」（講師：菅原祥夫氏）／24 ②「古代下総国の集落と開発」（講師：加藤貴之氏）／27 かすみがうら市歴史博物館視察

3月

2 ③「一望千里　四角い村と四角い田」（講師：岩田明広氏）／3 歴史探訪ウォーク／5-15 田宮原Ⅰ遺跡試掘調査／9 ④「ひたちなか市の古代集落の姿」（講師：佐々木義則）／10 市青少年課主催射爆場跡地観察会での説明／20-24・29-31 虎塚古墳一般公開／23 裾花観光見学／30 ユーラシア旅行社・クラブツーリズム見学／31 北区飛鳥山博物館・クラブツーリズム見学・『埋文だより』第60号刊行

入館者状況（2023.10.1. ～ 2024.3.31）

月	開館日数	個人（人）	団体（団体）	団体（人）	計（人）
10月	26	249	2 (0)	38 (0)	287
11月	26	2703	14 (2)	480 (177)	3183
12月	23	184	5 (0)	113 (0)	297
1月	23	157	2 (0)	17 (0)	174
2月	25	217	3 (0)	115 (0)	332
3月	27	1093	9 (0)	244 (0)	1337
合計	157	4603	35 (2)	1007 (177)	5610

（）内は学校数

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター及び（公財）ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が開催する事業は『市報ひたちなか』及び下記のホームページでお知らせします。
https://hitachinaka-maibun.jp

編集後記の 虎の子

二〇二四年二月二一日、十五郎穴横穴墓群が正式に国指定史跡となった。茨城県では三四遺跡目、ひたちなか市では、一九六九年の馬渡埴輪製作遺跡、一九七四年の虎塚古墳に続き三遺跡目となる。つまり五〇年ぶりにひたちなか市に新たな史跡が誕生したことになる。

全国に国指定史跡の「横穴墓群」がいくつあるのか調べてみると、二一遺跡ある。県別では、北から宮城県一、福島県四、栃木県一、千葉県一、埼玉県一、静岡県二、石川県一、大阪府一、福岡県二、熊本県四、大分県一、宮崎県一となる。指定になった理由をみると、二一遺跡中一三遺跡は「装飾があること」が重要視された横穴墓で、横穴墓群自体の重要性で史跡になっているのは七遺跡しかない。十五郎穴横穴墓群も現時点では装飾はないので、横穴墓群としての重要性が評価されたことがうかがえる。

これらの横穴墓群の史跡名称は「横穴群」に統一されていて、十五郎穴横穴墓群も「十五郎穴横穴群」となる。学術名称と史跡名称の二つが存在することになるため、今後は丁寧な説明が必要となる。

ひたちなか埋文だより　第60号　2024年3月31日発行
編集　公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社　発行　ひたちなか市埋蔵文化財調査センター
〒312-0011　茨城県ひたちなか市中根3499　TEL 029-276-8311　FAX 029-276-3699
印刷　大富印刷株式会社　ひたちなか市埋蔵文化財調査センターホームページ
50th Anniversary 2023

＊表紙の写真は，ひたちなか市報2023年10月25日号撮影風景です。